

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

みわじんじゃ  
**三輪神社**



三輪神社社殿（拝殿正面）



社殿（本殿から拝殿を望む）



際立つ素木と朱塗りのコントラスト・拝殿正面と唐破風



拝殿妻面の格子と懸魚

所在地： 高槻市富田町 4-14-14  
 最寄駅： JR 摂津富田・阪急富田駅下車  
 南へ徒歩約 15 分  
 見学： 自由です。但し大勢で見学される場合には社務所へお声掛けを。  
 問合先： 三輪神社  
 TEL： 072-696-0203  
 FAX： 072-696-0203  
 平成17年6月14日高槻市有形文化財に指定：  
 社殿・絵馬所・末社春日社

富田・寺内町に現存している主要な寺院は、富田御坊と呼ばれた本照寺、「沢の鶴」酒造の慰霊碑がある慶瑞寺、隠元和尚が再興した普門寺である。この普門寺の境内に隣接した土地の一画に三輪神社の境内が広がっている。

三輪神社の創建年代は詳らかではないが、『摂津名所図会』によれば、普門寺を再興し隠元和尚を中国から招請した僧侶龍溪が三輪神社を再興したとされており、同『図会』では「三輪明神」と記されている。

創建時の縁起について知る資料は現存していないが、『摂津名所図会』に「三輪明神」と記されている事、奈良県・大和国三輪山に鎮座する大神（おおみわ）神社が現在でも「三輪明神」と呼ばれている事から推して、大神神社から勧請したとも言われている。富田は元々酒造りの蔵元が建ち並んでいた街であり、現在でも2軒の蔵元が地元の味を守っている土地柄で、新酒ができれば軒先に酒神に対する感謝の意を込めて杉玉を吊り下げている。杉玉は大神神社の「しるし」である杉にあやかっているとされており、此処富田の地に三輪神社信仰が根付いたのも不思議ではない。

寛永年間（1624～44年）に普門寺の僧龍溪によって再興されるが、この時期は神仏混交が一般に行われていたので、僧侶が神社を再興する事もあり、神社に対する神宮寺、寺院に対する鎮守社と言う相互関係も確立していた。三輪神社が普門寺の鎮守社であったとする考え方も否定できない。権現造りにも似た拝殿・合の間・本殿で構成された社殿は寛永16年（1639）に竣工し、寛延2年（1749）に修復されたことが棟札や奉加帳序によって伺い知る事ができる。入母屋の平部分に唐破風を配した拝殿は、素木と朱塗りの柱のコントラストが目映えて、小振りながらも瀟洒な境内にその存在を際立たせている。（神保 勲）